

荒川区教育委員会  
教育長 川寄 祐弘 様

荒川区立 原中 学校  
校 長 刑部 之康

公印

### 学校関係者評価報告書

平成 24 年度の教育活動の評価結果及び改善方針について、下記のとおり報告します。

#### 記

#### 評価項目 1 「学校全体の様子」

1. 教育目標、方針に関しては保護者や地域等にはよく理解されている（保護者 AB86.4%評価委員会 AB100%）が昨年度と変わらず生徒への浸透度がやや低い（生徒 CD37%）。引き続き生徒に浸透を図る努力をしなければいけない。
2. 生徒の満足度が高い（AB85.4%昨年度よりやや上昇）。この項目での生徒の数値は最重要視すべきであると講師の先生より指導を受けた。次年度も生徒の満足度が上がるよう学校は努力していく。
3. 前年度に比べ、生徒の達成度（AB81%→73.6%）がやや下がった。教職員の達成度（AB（80%→92.3））は上がっている。生徒の質問項目にある「返事」が十分でないと考えた生徒が多かったのだろうと推察した。次年度は生徒の自己指導力を向上させ、達成度を上げていく。
4. 今年度、最も大きな課題となった項目である。教員の満足度は（AB100%）という非常に高い数値であったが、生徒の満足度は（AB53%→47.1）前年度よりも下がっている。教員は褒めて、伸ばしているつもりでも自己満足で終わっていることも考えられる。生徒の心に響く指導を心がけ生徒の満足度を上げていかなければいけない。
5. 生徒の「あまり当てはまらない」（13.8%）「よくわからない」（11.4%）の数値を減らすことを次年度の目標とする。

#### 評価項目 2 「学力向上の取組」

6. 教職員のあまり当てはまらない（30.8%）よくわからない（7.7%）が情けない。厳しい指導・助言をしていくとともに、本校の経営方針でもある「すべての生徒の学びを保証し、学び合いにより生徒が意欲的に取り組む授業」の実現を目指した授業の工夫や改善を図り、生徒の満足度（56.1%）を上げていく。
7. 習熟度別授業等の実践により、個に応じた指導の場面は多くなっているが、依然として3分の1強の生徒があまり当てはまらない、よくわからないと答えている。特別な支援を要する生徒、学力の高い生徒すべての生徒に対応できる授業、指導を実践し、生徒の満足度（59.8%）を上げていく。
8. 引き続き次年度の重点課題となった。今年度は家庭学習ノートの実践や定期的な課題提示など具体的な方法で改善に取り組んできたが、全体的に評価がやや低い（生徒 AB42.3%保護者 AB66.2%）。家庭学習の習慣化をめざし、家庭と連携を図りながら改善を図る。
9. 生徒、教職員の不満足度が同じような数値（生徒 CDE53.3% 教職員 CDE46.2%）となった。習熟度教室や特別教室にも I C T 黒板を購入し、数学科や英語科でも全クラスで使用できるようにするなど、情報教育のさらなる工夫・改善を図り、学力の向上につなげる。
10. 生徒の評価がやや上昇（CD64%→46.7%）した。放課後や昼休みだけの図書館の活用、国語科での図書館の活用は活発だが、他の教科等でも図書館を使うよう各教科、学年で取り組んでいく。

### 評価項目 3 「社会性・人間性の育成」

11. 生徒・保護者の達成度は昨年と同様である。(生徒 AB70%→67.5%、保護者 AB69%→74%)。道徳の授業をはじめ人権講演会等をとおして、また、保護者にも参加・協力を促し、生徒・保護者の人権感覚を磨いていく。よくわからないと答えている生徒(17.1%)も少なくないため、人権とは何かという根本的なことから指導していく。
12. 昨年度に比べ生徒の達成度は減り (AB65%→58.9%)、保護者の評価はやや上がって (AB73%→76.4) いる。生徒の達成度を上げるべく、授業改善を図るとともに教育活動全般で道徳心を養えるよう工夫していく。
13. 教育相談週間等の取り組みを行い、大人の評価は高く (保護者 AB76% 教職員 AB99%) となったが、生徒の満足度は高くない(生徒 AB44.3%)。今年度同様、教育相談週間を実践するとともに、日常的に教育相談ができる体制を整える。
14. 講師の先生からこの項目も常に意識しているよう指示された。生徒の意識はやや下がった (生徒 AB84%→76.4%) が、大人の評価は高い。(保護者 AB91.1%、教職員 AB100%)本校の特色ある取り組みの一つである。今年度同様勤労留学、自然体験教室、卒業スキー遠足、救急救命講習など体験活動を数多く経験させ、それぞれで得た能力を定着させ「生きる力」の育成につなげていく。
15. 生徒の評価 (生徒 AB62%→58.9%) に比べ教職員の評価 (AB60%→46.2%) が著しく下がった。教員は学級活動、生徒会活動等で具体的な改善策を考え、取り組んでいかねばならない。

### 評価項目 4 「保護者・地域との連携」

16. 大人の満足度は高かった。(生徒 AB63%、保護者 AB82%→88.9%、教職員 92.3%、評議員 AB100%)引き続き「わかりやすさ」を常に意識し、各通信やホームページを保護者、地域等に発信していく。生徒の評価では良くわからないと答えた生徒が35%を越えている。生徒にもホームページを見るように促し、アンケートを取る際に具体的にどのようなものを評価するのか説明する必要があることを感じた。
17. 13の項目と同様、生徒の評価が低い。(生徒 AB41%)、大人は評価が高い(保護者 AB83.3%教職員 100%)。教員の自己満足であるとすれば危険である。生徒の心に寄り添い、丁寧な指導を心がけなければいけない。
18. 保護者の評価が上がってきた (保護者 AB75%→86.8%) ことは今年度の成果である。今年度の取り組みをさらに改善し、保護者や地域と連携を図り、信頼を深め、さらにより開かれた学校作りを目指す。
19. 保護者の地域への参加意識は高いため評価 (AB86.1%) も高い。次年度は生徒も地域の行事に意欲的に参加させ、地域の一員であることを生徒に自覚させながら評価を高めていく。
20. 生徒の評価がやや低い (AB53%) が保護者の評価はやや高い。(AB75%) 今年度に引き続き地域からの意見は必ず全教職員に周知し、学校全体で意見を反映できるようにする。

### 評価項目 5 「特色ある教育活動」

21. 質問の内容が変わり生徒の評価がやや上がった。(AB69%→71%) 大人の評価は昨年度同様高い(保護者 AB92%、評価者 AB100%、教職員 AB84%)が、用務主事の活動によるところが大きい、生徒の清掃意欲を高め、学校全体で美化活動に取り組んでいく。
22. 「よくわからない」と答えた生徒・保護者が1,2年生に多かった。(1年生生徒40%保護者39%、2年生生徒25%保護者24%3年生生徒27%保護者2%)1,2年の生徒、保護者にも本校の進路指導の成果を分かる形で伝えるとともに1,2年次よりキャリア教育を充実させ、3年間を通した進路学習を実践していく。
23. 地域清掃ボランティアなど生徒会を中心に数多くの活動に取り組んでいる。昨年同様評価も高く(生徒 AB83%→72.7%、保護者 AB86.8%)、原中学校の特色ある取組みとして今後も継続、さらに発展させていく。

24. 部活動顧問会の定期開催、校内研修会をとおり、教員のスキルアップを図った。評価は昨年度とほぼ変わらない(生徒 AB57.3%、保護者 AB72%)が、文化部の増設、運動部の各大会での成績向上など明らかに部活動は活性化している。日常の活動や実績などをさらに充実させ、部活動の質を上げていく。
25. 評価が高く(生徒 AB77%、保護者 86%)、生徒、保護者の関心も高い。献立だけでなく給食だよりや給食時間中のメニュー説明等食育の幅を広げた。

### 評価結果を受けての学校の改善方針

小林福太郎先生からは「長年の課題であった、基本的な生活習慣は定着してきた。いよいよ学習に本格的に取り組む時期がきた。」というご指摘をいただいた。その際、「新しい取り組みを入れることも大切であるが、授業改善はもとより、補充学習や学習習慣の定着など今まで取り組んできた内容をさらに充実させ、学力の向上を図ることが大切である。」というアドバイスをいただいた。また、「学校の特色については同じような特色で他校と競い合って成果が上がった、下がった。」ということではなく、原中学校独自の教育活動や取り組みで特色を出していかなければいけないというご指摘をいただいた。この指摘はまさに本校の校長が就任以来目指していることであり、小林先生にお墨付きをもらったこととなり、次年度は自信を持って取り組んでいきたいと考えている。ただ、そのうえで最も重要視しなければいけないことは項目2の「先生や友達と楽しい学校生活を過ごしている。」項目14の人間関係作りにおいて積極的に生徒が参加しているかどうかは常に気を付け、生徒が楽しいと感じられる学校でなければ意味がないという指摘をいただいた。

評議員の皆様からは①傾聴する力を生徒に身につけさせてほしい。②生活指導は油断することなく厳しく指導してほしい。③整理整頓された学校づくりを目指してほしい。④公共心を育ててほしい。⑤あいさつのできる雰囲気の良い今の状態を続けてほしい。等の意見をいただいた。

教員のアンケート結果からは、教員はよしと思っけていても、項目4の児童・生徒理解や項目13の教育相談、項目17の相談の対応では生徒は厳しい数値を指摘している。教員は自己満足することなく生徒に寄り添い、丁寧な指導を心がけなければいけない。

以上の評価結果から次年度は以下の4つのビジョンを掲げ、生徒の健全育成を図っていく。

- 1 自律的な学習者を育て、学力向上を図る。  
～言語能力の向上を図り、生涯をとおして「生きる力をはぐくむ～
- 2 防災教育の緊急な必要性（防災教育の企画と実践）  
～首都直下型大地震の発生と他の災害に備えて～
- 3 地域に根ざした生徒を育てる。  
～地域に愛され、地域に根ざして生きる生徒～
- 4 国際交流と自然体験活動で視野を広げ、寛容性、社会性を培う。  
～人と人、自然と人との関わりを大切にできる人に～